

絵本から広がる 優しい時間



「絵本を開く時間が、皆さんにとって優しいひとときになればうれしいです」。そう語るのは、迫図書館で図書館司書をしている野家文恵技術主幹。日頃から子どもたちと絵本に接する司書の視点から、読み聞かせの魅力や家庭で大切にしたいことを聞きました。

「好き」の気持ちを大切に

「この本が好き」という気持ちは、子どもにとってもとても大切なものです。同じ絵本を何度も読んでほしいと持つてくることがありますが、それは物語や言葉を楽しんでいる証拠です。「またこの本？」と思わずに、その気持ちを受け止めてあげてください。好きな一冊を楽しむことも、言葉や想像力を育て、本への親しみにつながっていきます。

楽しみ方は十人十色
一人一人の個性を大切に

保護者の皆さんからは、「どんな本を選べばいいですか」「最後まで聞いてくれませんか」といった相談



迫図書館
野家 文恵 技術主幹

をよく受けます。でも、一人一人興味や成長のペースは違うので、正解は一つではありません。最後まで読めなくても大丈夫です。ページを行ったり来たりしながらでも、一人一人のペースで絵本を楽しんでいます。大切なのは、親子で一緒に絵本を開く時間です。

絵本と過ごすひととき

読み聞かせに特別な準備は必要ありません。短い時間でも、一冊だけでも大丈夫です。親子で一緒に物語を楽しむことが大切で、その積み重ねが、子どもの言葉や想像力を育み、温かな思い出を残してくれます。気負わず、それぞれの家庭らしい読み聞かせの時間を楽しんでいただけたらうれしいです。



「おはなし会」、「赤ちゃんおはなし会」、「ブックスタート」、「読み聞かせサークルおおきな木」「読み聞かせコンサート」。読む人も、聞く人も、物語の世界へ。

まなざしの
その先に――

ゲームやスマートフォン、動画サイトが日常に溶け込み、子どもたちがデジタル画面に触れる時間が増えている今。そんな時代だからこそ、本を開いた時の感触や、紙の香り、そして、ページをめくりながら広がる絵本の世界は、暮らしの中にほっとした安らぎと優しい時間をもたらしてくれます。

読み聞かせは、絵本の世界を声で伝え、子どもたちに優しさあふれる時間を届けてくれます。誰かの声に包まれて、物語の中で笑ったり、ドキドキしたりする感覚は、子どもたちの豊かな想像力を刺激し、心を優しく満たしてくれます。そして、同じ空間で一緒に過ごすこの時間は、世代や背景を超え、子どもも大人も心をほっと和ませる瞬間です。

絵本を通して生まれる笑顔や弾む会話は、これからの登米市を担う子どもたちはもちろん、地域で見守る大人の心も豊かにしてくれるはずです。暮らしの中に絵本が寄り添い、読み聞かせの輪がこれからも広がっていくことを願っています。



1 図書館には、たくさんの絵本が並ぶ 2 施設見学で図書館を訪れた子どもたちに読み聞かせを実施 3 探している本と一緒に探す野家技術主幹